無防備都市（1945）

ROMA, CITTA, APERTA
ROME, OPEN CITY［米］

メディア 映画
ジャンル ドラマ　戦争
製作国 イタリア
色彩 B&W
時間 106分
初公開日 1950/11/07
公開情報 イタリフィルム＝松竹洋画部

【解説】

今みても大変衝撃的な、ロッセリーニによるレジスタンス劇である。４２年のローマ。国民解放会議の指導者マンフレディは名を変え、市井に潜っていたが、めざといナチ高官に恋人の女優マリーナと写った写真から正体を探られ、同志の印刷工フランチェスコの下宿に逃げ込む。彼は隣室の戦争未亡人ピーナ（マニャーニ）との結婚を控えていた。子連れで再婚するピーナは期待と不安でいっぱいだ。マンフレディは闘争資金調達に回らねばならなかったが、身動きが取れず、神父ドン・ピエトロ（ファブリッツィ）に連絡係を頼み、金の入金に成功。そして、ピーナたちの結婚式の日、ナチ・ゲシュタポに襲われたマンフレディは逃げるが、フランチェスコらは逮捕され、その護送車を追ったピーナは撃ち殺される。ここまでが第一部。そして二部――。護送車はパルチザン同志の襲撃に遭い、フランチェスコは解放され、マンフレディと合流してマリーナのアパートを頼るが、彼女はナチの婦人隊員に金と物資、加えて麻薬で縛られ（同性愛を暗示する場面があるが、マリーナを演じたＭ・ミーキにそれだけの役柄をこなす力量がなく、この辺が空転して作品を損ねてもいる）、彼らは訣別。神父の手引きで更に隠れ家に逃れる途中、マリーナの裏切りでマンフレディは神父と共にナチに拘束され、神父の目前で酷い拷問にあうが、遂に一切口を割らずに絶命。“共産シンパ”となじられた神父も、“悪魔と闘うのに信仰は関係ない”と吐き棄て、刑場の露と消えるのである。このラスト、金網越しに少年たちに見守られながらの処刑シーンは現代のゴルゴダの丘を想わせる素晴らしさで、絶望してその場を去る少年たちの肩を落とした姿が忘れられない。原作はＳ・アミディでフェリーニと共同で脚本も書いている。

【クレジット】

監督	ロベルト・ロッセリーニ	Roberto Rossellini	
原作	セルジオ・アミディ	Sergio Amidei	
脚本	セルジオ・アミディ	Sergio Amidei	
	フェデリコ・フェリーニ	Federico Fellini	
撮影	ウバルド・アラータ	Ubaldo Arata	
編集	エラルド・ダ・ローマ	Eraldo Da Roma	
音楽	レンツォ・ロッセリーニ	Renzo Rossellini	
出演	アルド・ファブリッツィ	Aldo Fabrizi	ドン・ピエトロ・ペレグリニ
	アンナ・マニャーニ	Anna Magnani	ピーナ
	マルチェロ・パリエーロ	Marcello Pagliero	ジョルジオ・マンフレディ
	マリア・ミーキ	Maria Michi	マリーナ・マリー
	フランチェスコ・グランジャッケ	Francesco Grandjacquet	フランチェスコ
	ハリー・フェイスト	Harry Feist	ベルグマン
	ジョヴァンナ・ガレッティ	Giovanna Galletti	イングリッド

このデータベースのデータおよび解説文等の権利はすべて株式会社スティングレイが所有しています 。
データ及び解説文、画像等の無断転用を一切禁じます。 Copyright (C) 2024 Stingray. All Rights Reserved.

ヴィト・アニチアリコ　Vito Annichiarico　ピッコロ・マルチェロ

このデータベースのデータおよび解説文等の権利はすべて株式会社スティングレイが所有しています 。
データ及び解説文、画像等の無断転用を一切禁じます。　Copyright (C) 2024 Stingray. All Rights Reserved.